



国際ロータリー第2790地区

君津ロータリークラブ週報

例会日 毎週月曜日
12:30PM~13:30PM
例会場 新大和田クラブ
Tel:0439-55-2240

事務局
〒299-1144
君津市東坂田1-3-304
Tel:0439-52-8882
Fax:0439-27-0622

2025~2026年度

Vol.17 No.2320 2025.12.15

令和7年12月 第3例会 曇

開 始 点 鐘 大川 裕士会長
四つのテスト 佐々木昭博会員
R ソ ン グ それでこそロータリー

【出席報告】 免除者0名 休会0名

例会数	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2320	49	49	32	17	65.30%
2319	49	49	39	10	79.59%
前々回の修正	マークアップ 2名				82.0%

(敬称略)

会長挨拶

大川 裕士会長

12月10日(水)にて開催されました、2025-26年度第5G第4回会長・幹事会について報告致します。君津RCからは内藤幹事と私・大川が出席しました。

議題は5つあり内①~③は審議事項でした。

①の10月5日(月)に開催された

ブルーベリーラン決算について(審議事項)

第10回木更津ブルーベリーRUN3時間耐久リレーマラソン&ファミリーウォークの内容・参加者・結果の報告と予算の審議が行われ、全会一致で承認されました。(君津RCからランナーとして鈴木荘一会員・秋山大輔会員・宮寄慎会員、応援として内藤智介会員が参加)

②として11月7日(金)に開催されました、第5Gラーニングセミナーについて(審議事項)

内容・結果・予算が上程されました。内容は、1)パネルディスカッションにてグループや地区活動において、多方面で活躍をされている会員をパネラーとして迎え情報を共有する。2)グループディスカッションにてクラブの垣根を超えた仲間づくりと、ロータリー活動をどのように楽しむかについての意見交換。3)情報交換会にて参加者全体の接点機会とする、です。

結果については参加者数で、パネラー3名(君津からは鈴木荘一会員の参加)、出席者数は総勢48名(君津RCからは8名)の参加でした。予算の説明後審議が行われ全会一致で承認されました。率直な意見が多く出た、パネラーの話がおもしろかった、参加してよかった、地区へ行ってみたい、等多くの意見が出され、大変よいセミナーだったと総括しました。

③のI・Mについて(審議事項)

実施は2026年2月18日(水)14時、会場はかずさアカデミアホール、研修テーマ「自分もクラブも成長しよう」で、目的はロータリアン及びロータリークラブが成長するための方法について学習すること。また、第6Gと共同開催することで、新たな情報交換と交友関係を増やす機会を作ることです。

事業概要は最大第5G213名第6G160名の総数373名の会員が参加するI・Mとなります。インターシティミーティングは14:00~16:30で内容は講演としてRI第2670地区PG前田直俊様(坂出東RC)、持時間3分の14クラブのクラブ紹介、直前ガバナー補佐挨拶等です。

その後17:00~19:00懇親会です。懇親会で次期ガバナー補佐紹介の時間が設けられており、次期ガバナー補佐とガバナー補佐を出すホストクラブ会長の挨拶があります。

黒岩会員と大森会長エレクト、挨拶宜しくお願い致します。

また、チアリーディングチームHONEY'Sの演技が予定されています。演技時間は20分の予定です。

クラブ紹介については渡邊ガバナー補佐の意向として第5Gは会員全員登壇して行って頂きたいが、クラブに一任しますとのことです。

第5・第6Gの親睦を深める目的ですので、多くの方と名刺交換して下さいと、松岡幹事長が強い思いを語られました。審議に移り全会一致で承認されました。

④第5ゴルフコンペの参加協力依頼について

2026年5月15日(金)木更津ゴルフクラブにて行われます。

⑤ガバナー補佐会議の報告について

第13Gのガバナー補佐石井弘様より松戸北RCと姉妹クラブのインドネシアのRCから11月にインドネシア

ガバナー	時 田 清 次	会 長	大 川 裕 士	幹 事	内 藤 智 介
ガバナー補佐	渡 邊 慎 司	会長エレクト	大 森 俊 介	編 集	福 島 大 介
		副 会 長	常 住 賢 二		

を襲った洪水災害に対する募金依頼があるとのこと
です。

⑥今後の日程として

会長・幹事会は6月の新・旧合同会長・幹事会のみ以上が会長・幹事会のまとめです。

最後に渡邊G補佐がI・M、を集大成としたいので、大いに盛り上がりましょう!と、締めました。

まとめませんが、会長・幹事会の報告をもって会長挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

会長報告

12月10日(水)に周西中学校にて出前教室を実施致しました。ご協力頂きました講師の皆様、お疲れ様でした。

報告につきましては、八重原中学校の出前教室終了後にまとめて職業奉仕委員会の篠塚委員長よりお願い致します。

12月14日(日)に世話クラブ・カウンセラー懇談会が成田市の平山建設㈱にて開催されました。当クラブからは岡野カウンセラーと米山記念奨学会委員会の内山副委員長が出席されました。お疲れ様でした。後程、岡野カウンセラーより報告をお願い致します。

幹事報告

内藤 智介幹事

〈配布物〉

1. 例会プログラム

〈報 告〉

1. 次週22日(月)は親睦忘年会です。チャリティーバザーを予定しております。

一人二品以上、木更津ワシントンホテルへご持参下さい。

前日の朝(12/21)10時～夜22時までと当日(12/22)の朝10時よりお預かり可能です。レストラン「ボンサルーテ」のスタッフへお声がけして預けて下さい。オークションのスタート価格に、希望がある場合は、スタート価格を書いた紙を貼って預けて下さい。

なお、バザーの際は品物を見せますので、包装紙は不要です。持ち帰りの袋のみご提供頂けると幸いです。



〈回 覧〉

1. 君津RC週報
2. 第5グループ週報
3. 新年初例会の出欠の案内
4. 「ヤングロータリアンのつながりの夕べ」開催の案内
5. 千葉西RC創立50周年記念式典・祝賀会のご案内

退会セレモニー

高島 俊治会員

皆さまこんにちは。

私は2022年4月に、大浦元会員様のご紹介で、君津ロータリークラブに入会させて頂きました。皆さまには温かく迎えて頂き、今月まで約3年半の期間、ロータリー活動を経験させて頂きました。皆さまのご指導に深く御礼申し上げます。



この度、社の方針に変更があり、例会ならびに諸行事への参加が困難な状態となり、大変残念ではありますが、退会させて頂くことになりました。

在任の約3年半を思い出しますと、2022年4月に入会して、同月23日に、いきなり「君津ロータリークラブ創立50周年記念大会」に出席し、その規模の大きさ、同志の方々の多さに感動致しました。また、駅前花壇の花植えなど、日頃、誰が行っているのかも知らなかった作業を、生徒さんと一緒になって行うなど、初めての発見もさせて頂きました。

「出前授業」には、3年間継続して参加させて頂きました。昨日10日の周西中での授業が最後となりましたが、孫がいたらたぶんそのような年頃の生徒さんたちに、社のPRをしながら、楽しく授業を行わせて頂きました。

ゴルフ同好会にも参加させて頂き、思い返せば楽しい事ばかりが思い出されます。

本当に、この3年半の間、皆さんにお世話になりました。今後何処かでお会いする事もあると思います。その節には宜しくお願い致します。

最後になりますが、君津ロータリークラブの益々の発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、私の退会の挨拶とさせて頂きます。本当にありがとうございました。

委員会報告 米山記念奨学会委員会 「カウンセラー懇談会の報告」

岡野カウンセラー

昨日、世話クラブカウンセラー懇談会が急遽成田にて開かれました。君津RCからは私と内山会員で参加してきました。

米山記念奨学会評議員パストガバナー青木貞雄様、米山奨学会理事パストガバナー宇佐美透様、富里RC富一美様から、米山奨学事業の現況と課題、解決についての卓話、そしてグループディスカッションをしました。

先に皆さんも持っている豆辞典の内容に沿って、事業の歩み、事業の運営の話から始まりました。

現在高市早苗総理の一連の発言を受けて、日本と中国との関係はやや緊張感をましているように見受けられます。そこで、米山奨学生の中にも中国人留学生の割合が高いこと、その対応について、「国家」と「個人、民間の交流」は別であるという点に理解を深めてほしいという説明がありました。

その他よくある質問では、日本人を支援しないのか?など豆辞典P27, P28に記載されている内容を詳しく説明もありました。

その後会場を移して、懇親会が行われ、各RCでの奨学生との交流の様子や、今後の卓話依頼など意見をかわし、皆さんと親睦を深めてきました。

公共イメージ向上委員会 ロータリーの友紹介

大多和 一彦会員

- ・横組み3ページ、RI会長のフランチェスコ・アレツツォ氏からのメッセージ

フランチェスコ・アレツツォ会長は、ロータリーが単なる「幸せ」だけでなく、心身ともに健康な環境づくりに貢献できると強調。特に12月はロータリーの「疾病予防と治療月間」としてメンタルヘルスに注目し、世界中で精神疾患に苦しむ人が多い現状に警鐘を鳴らしています。



会長は、ご自身の吃音克服経験から「友情」の力を語り、ロータリーがメンタルヘルス支援で果たすべき役割を提示。クラブでの意識向上や地域連携が重要だと訴えます。ゴードン・マッキナリー元RI会長の「『元気?』と聞くのではなく『本当のところどう?』と問いかける大切さ」という言葉も引用し、深い共感を促します。

新年に向け、癒やし、友情、そして幸せのために、皆で手を取り合い、良いことをしていこうという力強いメッセージでした。

- ・横組み5ページ「ロータリー談議」

2018年の国際協議会で出会った高野さん、木下さん、本田さんの3名が、ロータリーへの執い思いを語り合う座談会です。この「ロータリー談議」は、ロータリーの友委員会委員長、高野孫左エ門さんの発案で「今を生きる私たちも、後に続く会員のために何か残したい!」という思いがきっかけだったそうです。

まず語られたのは、お三方の「人会の経緯」でした。多くの方と同様、「断りきれずに誘われた」というケースが多かったようです。先輩の誘いを「しょうがない(笑)」と受け入れ、厳しい例会出席を経て今も皆勤賞とか、ロータリーとライオンズの違いも分からず入会し、最初は「不良会員」だったそうですが、副幹事の役職がきっかけで熱心になり、今では皆勤賞。入会時は具体的なメリットを聞かされなかったものの、後からロータリーの魅力に気づくという、多くの会員に共通するパターンようです。

「義理」だけでなく、「地元の人と知り合えよ」という言葉が後押しにもなったそうです。役職を重ねるうちにロータリーが面白くなっていった経験から、新会員には役割を与えることの重要性が語られました。

「ロータリークラブって、結局何をしているところなんだろう?」この問いではロータリークラブの本質を「奉仕活動を通じて人材、つまりリーダーを育成している」ことだとか、ロータリーを「人生の道場」と表現し、本業とは異なるリーダーシップを養い、「主体的で自律的なロータリアンを目指す」場だと強調しています。

例会の役割についても議論され、スマホいじりなど「つまらない」と感じる会員もいるという現状も語られました。しかし、例会は「人と知り合うきっかけの場」であり、多様な人々との交流を通じて自己の価値観が更新されていく、大きな特長があると指摘。「例会を重ねることで、発酵していくような深みが生まれる」という言葉も印象的でした。

「ロータリークラブの存在する意義とは何か?」

という最も本質的な問いが、談議の終盤で語られました。

「フェロシップ」を「仲間意識」や「友情」と訳し、例会の効能がこの仲間意識を育む点にあると指摘。クラブの存在意義として、特に「年齢、性別、業種、ロータリー歴などに左右されない対等平等な関係性」を最重要視し、俗世の上下関係とは無縁であるべきだと力説しています。

また、クラブがあるからこそ奉仕活動ができる、と強調。個人では難しいこともクラブとしてまとまれば多様なことができ、それが会員個々の成長にも繋がると述べられていました。そして談議は、「ロータリーに入って良かったな」と思える体験を、もっと多くの会員に伝えていこう、という言葉で締めくくられています。「続きは次号」とのことですので、来月の茂田会員にお願いしたいと思います。

・横組み14ページポリオ根絶活動について

これは、全国のロータリアンから募集したポリオ根絶活動のエピソードを、全3回にわたってご紹介するものです。これも続き物ですね。街頭募金からワクチン投与活動まで、多岐にわたる感動的な体験談が満載ですので、ぜひ一読下さい。今回は6つのエピソードから2つだけご紹介します。

EPISODE2では宇土RCの福永さんからのご報告。福永さんのクラブでは、毎年地域の地蔵まつりでポリオ募金活動を実施。ローターアクターの提案で「カフェオレフロート」販売を実施。「募金お願いします!」と明るい声が響き、多くの協力が得られたそうです。まつり後のゴミ拾いまでこなすアクターの姿に、福永さんは元気と感動ももらったとのこと。地元企業で働く外国人が活動に共感し寄付してくれたエピソードも印象的でした。

EPISODE4では大阪上方RCの溝畑さんからのご報告です。溝畑さんは、ポリオ・ハイリスク地域における不衛生な水の問題に着目。2019年にパキスタンでのワクチン投与活動に参加し、「清潔な水」がポリオ感染予防に不可欠だと痛感されたそうです。

この経験から、日本初となるグローバル補助金プロジェクトとして、カラチの5カ所に太陽光発電による浄水装置を設置。約9万6,000人が恩恵を受け、贈呈式には元Ⅲ会長も出席されました。さらに、今年度も別のグローバル補助金プロジェクトとして、カラチの学校にトイレと下水設備を設置し、衛生教育も実施予定とのこと。

ワクチンと並行してインフラ整備と啓発活動を続けることで、子どもたちの未来を守るという溝

畑さんの強い決意が伝わる、素晴らしい活動報告でした

・縦組みにうつって2ページ

SPEECH(日本生まれ、世界育ちの母子手帳)

日本WHO協会理事長中村安秀さんの母子手帳にまつわるお話です。中村さんによると、日本の母子手帳は戦後の困難な時代に地域の人々の努力で広まったもの。電気も水道もないインドネシアの村でその価値を再認識した中村さんご自身が、現地に合った手帳を作り、それが世界に広がるきっかけとなったそうです。小児科医としてJICAの仕事を通じ、日本の母子手帳の素晴らしさを痛感。海外での経験が、日本の当たり前を「すごい発明品」と認識させたようです。

母子手帳は、1948年、戦後間もない日本の厚生省が、世界で初めて、母親と子どもの健康記録をひとまとめにし、家庭で所有できるシステムとして発行したそうです。この「単純なシステム」が、実はとてつもなく大きな発明であったことが、海外での診療を通じて判明しました。

そして中村さんは、日本に研修に来た医師の申し出をきっかけに 1994年からプロジェクトを開始。日本の手帳を翻訳するのではなく、インドネシアの人々と共に、インドネシア語で一から作り上げました。子どもが「自分の母子手帳」と誇らしげに持つ姿を見て確信し、手帳は不足するほど評判に。2004年には保健大臣令で全国普及が義務化されるまでに至りました。タクシー運転手のお母さんが母子手帳を大切に使いこなし、「日本にもあるんですか?」と尋ねてきたエピソードは、その浸透度を物語っています。

また、インドネシアでの成功だけでなく、ケニア初の女性医師、ミリアム・ウェレさんとの出会いをきっかけに、中村さんは世界中に母子手帳を広げていきました。普及の過程では、各国独自の工夫が見られ、ベトナムでは「手帳は子どものもの」、タイでは冊子と電子版の併用といった多様な展開を見せています。パレスチナでのエピソードでは、ガザ地区で自宅が破壊された後、母親ががれきの中から拾ってきたのが1歳の男の子の母子手帳だったと。命の次に大切な記録として、母子手帳がいかに価値あるものかを示しています。

また、母子手帳も時代と要請に合わせて変化し続けているというお話でした。「貧しさから生まれた」日本の母子手帳が、今や世界に貢献。私たちもそれに甘んじることなく、時代に合わせて新しいものを作り続ける必要があると力説されました。母子手帳の海外普及から、アナログとデジタルの共生、世界と手を取り合うことの重要性を学べるお話となっています。

・縦組み8ページこの人訪ねて(麻酔科医の孤独と信念)

青森モーニングRCの麻酔科医、坂井哲博先生のお話でした。ご自身の仕事を「麻酔科医はお得意さんのいない仕事で、だいたい初見の方」とユーモアを交え、「タクシーの運転手さんと似ている。どの手術も安全に終わらせないと」と語ります。手術中、患者さんの傍らを離れずひたすら観察。患者さんは覚えていないが、「一番具合の悪い時に会っていますからね」という言葉には深い思いやりが。直接感謝されなくとも「それが誇り」と語る坂井先生の言葉には、麻酔科医としての矜持と、その仕事が「ハードボイルドで哲学的」である奥深さが表れていました。

坂井先生は、戦時中の無麻酔手術経験から麻酔科医の重要性を確信。当時は「麻酔科なんて要らない」という暴論もあったそうですが、信念を貫かれました。アメリカのテキサス大学での勤務経験では、異文化での苦労話や、日本の麻酔科医なら知っている専門用語を現地の人々が知らないというエピソードも。プライベートでは、教会に誘われ、よく分からないまま参加した「聖餐式」が、後にクリスチャンになるきっかけに。帰国後は日本の手術現場の変遷を見守り、ロボット手術による患者負担軽減を歓迎。進行がん治療では「命の方が大事」という考え方で、患者さんの人生の質を高めることが重視されるようになったと語られました。

昔の心臓病手術で「チャレンジ」と感じることもあったが、「手術しない選択肢もない」中で、患者さんに麻酔をかける自分が「最後の会話」をする可能性があると感じていたと語られます。2011年にクリスチャンになったきっかけは、『創世記』の「深い眠りに落とされた」という記述に「神様が世界で初めて全身麻酔をしていたんですね!」と感銘を受けたこと。以来、「今はパラシュートを背負っているから安心」と心が楽になったそうです。2007年からは「むつ総合病院」の副院長を務め、多忙な現場で地域医療に貢献。研修医の育成責任者も務め、「生活が陶冶する」という言葉をモットーに、人間性を育む場を作られました。

最終章では、坂井先生の指導を受けた弘前大学の木下裕貴助教は、むつ総合病院での研修を「逃げ場がないから鍛えられた」と語り、この冬からロータリー財団の補助金でアメリカへ留学予定です。坂井先生は今年度、青森モーニングRCの会長で、チームポリオとしてパキスタンでの活動にも従事。「看護の領域は広い」と70歳を過ぎて気づいた深い洞察も披露。故郷への愛情深く、津軽

の「岩木山」への思いを語られました。最後は、坂井先生が「聖歌隊」として活躍する教会の式典で、自身を「種まく人」として認識。その情熱と信念に満ちた人生と、ロータリーへの貢献に心からの敬意を表します。

会員卓話

テーマ「世界中の人がほぼ知らない日本生命の事」

山口 正洋会員

日本生命の山口です。本日は貴重な卓話の機会を与えて頂きありがとうございました。

日本生命は生命保険販売というイメージが強い印象があります。本日は生命保険以外でどんなことをしている会社なのか、簡単ではありますが、約20分程度でお話をさせていただきます。

まず初めに簡単な自己紹介をします。僕は、北海道旭川市というところで生まれました。地図で見るとこんな感じです。北海道のだいたい真ん中に旭川市はあります。

大学は札幌市で4年間通ったあとに、2007年に日本生命に入社しました。

いま17年目を迎えましたが、最初は東京その次は、西東京にある立川市、そして2011年の3月に札幌に勤務して、今回千葉に転勤してきました。

千葉は本当にあったかくて済みやすいところですね!

私の趣味はほとんどないのですが、唯一好きなのはラーメン屋巡りです。ここで日本生命と全く関係ありませんが、旭川ラーメンでここだけは食べてほしいラーメンを塩、しょうゆ、みそで連携します。旭川ラーメンの歴史は語ると長いのですが、一番特徴なのはラードを使っています。これは寒冷地特有の方法で、スープの上に油膜を張ることで、熱を逃がさないで長く熱々のラーメンを食べることができます。

それでは、まずは、塩ラーメン。これはカップラーメンでも有名な山頭火です!至極の塩とこつラーメンです。

続いて、しょうゆラーメンは、天金一択です!真冬でも超並んでますが、一度食べたらやみつきになります。コカ・コーラと同じ現象です。

最後に、みそラーメンはナチュラル二郎系とよばれているめんやよし乃です。言葉悪く言えば、中毒性の高い濃厚なミソスープと大量の野菜接種で、一日の野菜量をとることが可能です。



話は脱線しましたが、日本生命はどんな会社なのか、何をしているのか、というところからお話しできればと思います。

まず日本生命の基本情報です。正式名所は日本生命保険相互会社という名前であり、株式会社ではなく相互会社という形態をとっております。

株式会社では会社の持ち主が株主である一方、相互会社は保険のご契約者様が保有する形態であり、創立より大事にする「お客様第一」の理念を体現しております。創立は1889年で、今年で創立136年となり、非常に長い歴史があります。従業員数や事業所数、子会社数も表示しておりますが、規模の大きさも感じて頂けるかなと思います。

まず私たちの目指す企業像は、“安心の多面体”です。今までの日本生命は、リスクが起こった時に役立つ生命保険を主に提供していました。しかし、近年お客様のニーズは、「リスクそのものを減らす」であったり、「資産形成で将来に備える」ことへの意識が高まっています。長い人生には、生命保険だけではカバーできない安心がまだまだあります。そうした中で日本生命は「生命保険を中心にアセットマネジメント・ヘルスケア・介護・保育等のさまざまな安心を提供する“安心の多面体”」を目指し事業展開していきます。

日本生命グループが目指す社会は、「誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会」です。その社会を実現するために、日本生命グループは、一人ひとりの夢や希望、不安に向き合い、「人・地域社会・地球環境」のサステナビリティ向上に取り組んでいます。この社会を目指す理由としては、当社グループを取り巻く環境が関係します。現状このスライドにあるように、人口減少・高齢化の更なる進行・お客様ニーズの多様化など、当社グループを取り巻く環境は不確実であり、当社事業に与える影響も大きくなっていきます。そのような不確実性の高い事業環境だからこそ、当社グループにはサステナビリティ経営の更なる高度化が必要となってきます。

当社グループは創業135年にわたり、本業を通じたサステナビリティ経営を実践してきました。今後もサステナビリティ経営を事業運営の根幹と位置付けて、お客様からの一層の信頼獲得と社会課題の解決を目指していきます。

日本生命には全国に約100の支社がございます。そのうちの1つにあたるのが今私がおります君津営業部もある千葉支社になります。千葉支社はちーばくんで言うと首から下のエリア全てを担当しており、在籍している職員の数は首都圏でもトップとなります。地域を担当する支社として、千葉支

社においても冒頭に説明した「誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会」を実現していくにあたり様々な活動を行っております。その中でも今年度実施致しました主な取り組みをご紹介します。

千葉支社では5年前に千葉県と「包括連携協定」を結びました。通称「ちばコラボレーションシップ」といいます。協定に基づき、ご契約を頂いてるかどうかに関わらず、日々地域のお客様のため様々な活動を行っております。

1つ目が企業交流会です。こちらは私の担当をしている企業様のからのご要望があり、そちらにお応えする形で企画致しました。当日は約50の地元の企業様にご参加頂き、地域の企業様同士だけでなく、普段接点を持つことができない企業様との交流の場を設けることができました。

2つ目が木更津市で開催されたオーガニックフェスというイベントでのブース設置です。千葉支社は木更津市とも包括連携協定を結んでおりまして、その一環で今回のイベントにお声がけを頂きました。握力計で力を競い合う、握力コンテストを開催し、当日は600名ほどのお客様に来て頂きました。来年も実施が叶えばぜひ一緒にお願いますとのお話も頂きましたので、継続して実施できればと考えています。

お客様向けのイベントだけでなく地域環境を守るための活動なども行っております。今年の4月には富津岬の近くにあるニッセイ富津の森というところがございます。イメージがないかと思いますが、ニッセイはグループ事業として森林づくり事業も行っております。昨年から富津の森の活動も開始され、育樹・植樹を行い、地球環境を守ることにつながればという想いをもちボランティア活動を実施致しました。そして、ちょうど本日ですが富津市に企業版ふるさと納税を実施致しました。

また、スポーツ事業も積極的に行っており、スライドには記載はございませんが、全国的なものとしては陸上の桐生選手や体操の橋本選手などと契約を結び全国で教室を開いたりなど、未来の子供たちの成長を願うイベントなども行っています。

千葉ではバスケットチームで千葉ジェッツとアルティリー千葉がトップリーグで活躍していますが千葉支社はアルティリー千葉へ協賛をしております。記載の通り、来年1月には清掃活動を行うなど今後も地域密着型の活動を継続的に行っていきたいと考えております。

そんな生命保険を提供する生命保険会社は実際何をしているのでしょうか。生保ってなにをやっ

ているのか?実は、大きく分けて2つの機能があります。保険商品を開発して、営業して売って、何かあった時は支払って…、という、比較的皆さんがイメージしやすいであろう領域が、「保障機能」です。もうひとつ、「資産運用機能」。これが保障と並び立つ、2つ目の機能です。機関投資家としての顔も持っています。お客様からお預かりした「保険料」って、そのままタンス預金している、訳ではございません。保険会社には「責任準備金」という、会社を運営する資産の「ほか」に、何かあった時にも確実に迅速にお客様へお支払いができる資金力を持っていなければならない、という特徴があります。様々なマーケットに投資して運用収益を得て、少しでもその資金力を安定的に増やそうとしている、というわけです。

1つ目の機能である保障機能の規模感ですが、日本生命には、個人のお客様がおよそ1,519万人いらっしゃいます。日本の人口を考えると8人か9人にひとり日本生命のお客様です。また、法人のお客様が約35万企業あります。お客様からお預かりする保険料、これが一般企業で言うところの売上、みたいなイメージと思って下さい。1年間でおよそ7.8兆円。そしてここが大事なところですが、お支払いした保険金は、6.8兆円です。1日あたり約150億円、1時間で6億円、お支払いしていることになります。金額が大き過ぎて想像しづらいかもしれませんが、いかにお客様のお役に立っているかがお分かり頂けるかと思います。お客様へ「確実に保険金をお支払すること」が我々の最大の使命であり、最も大切にしていることです。

会社の事業が多角化していく中でも、我々生命保険会社の使命はここにあり、お客様を大切にしていくということはこれからも変わりません。

次に、資産運用機能です。総資産96兆という数字ですが、比較対象として、日本の一般会計の国家予算が約100兆円。規模の大きさがわかると思います。この資産を、表示しているような有価証券・不動産・融資に投資し、各マーケットで運用収益を得ています。それぞれの保有資産も表示していますが、有価証券はもちろんですが、不動産は中堅デベロッパー、融資も都市銀行に並ぶ規模感です。この巨額の資産残高から日本生命は「国内最大級の機関投資家」とも言われており、日本経済を金融マーケットから支えるという使命も持っています。

以上の通り、当社グループは創業来、生命保険事業を主軸に安定した収益と健全な財務基盤を確立してきました。

具体的には、2024年度末時点で保険本業の収益性を示す基礎利益が1兆109億円、そして健全性を

示す自己資本は7.7兆円となっています。これによりお客様への迅速かつ確実な保険金のお支払いを行うことに加え、利益を安定し契約者配当という形で還元、さらに充実していくことも行っています。

では、日本生命が目指す「安心の多面体」への取組を詳しく説明します。今ご紹介した商品を様々なチャネルで販売しています。今後は営業職員チャネルに加え、代理店・金融機関窓販、デジタルチャネルの全てでトップカンパニーとなり、お客様数の拡大を目指しています。

日本生命はスライドに記載しているように様々なグループ会社を保有しており、多様化するお客様のニーズに対応できるようにしています。

次はアセットマネジメント事業です。資産形成ニーズが多様化していく中、日本生命グループとしてさらにお客様のニーズにお応えするため、アセットマネジメント事業つまり資産運用や運用資産の管理を行う事業に力を入れております。その核となるのが、ニッセイアセットマネジメント株式会社であり、現在の預かり資産は41.5兆となっております。

生命保険会社のビジネスについて先ほどご説明しました通り、伝統的に生命保険会社は機関投資家として資産運用事業を大規模に展開し、ノウハウを蓄積してきました。すでに取り組みが始まっていることではありますが、グループ傘下の保険会社及びニッセイアセットマネジメントで人材も含め、機能を集約することでグループとしてさらなる運用力の強化を図ります。そしてその強化された運用力を活用し、資産運用商品・サービスの拡販を推進していきます。実際、すでにゴールナビ・エヌダイレクト等お客様の新たな資産形成ニーズをとらえた商品を提供しております。

ヘルスケア事業では、2018年以降、健康リスクの低減に向けたコンサルティングサービスであるウェルネススターを企業・団体に提供し、企業に健康診断のデータ分析レポート等を連携しております。こちらのサービスは181団体・335万人に利用されております。今後はデータ分析高度化の推進や、医療機関や健康機関等とのアライアンスを進めていきます。特にアライアンスに関しては、日本生命が医療・健康機関との連携を強化することで、より付加価値の高いサービスを企業に展開していくことを目指しております。

次は介護・保育事業です。生命保険事業による金銭的な支援に加え、介護や保育事業に取組むことでお客様に一生にわたる安心を提供しています。少子高齢化等の社会課題により、今後介護・保育といった機能の重要性は一層高まっていま

す。

介護事業では、人生100年時代と言われる中、長寿時代をサポートするため、シニア向けの商品開発を実施しています。

保育事業では、企業が従業員のために事業所内や周辺の施設等に設置する企業主導型保育所を約90か所展開しています。また、社内起業プロジェクトにて、一時保育マッチングサービス「ちょこいく」が立ち上がり、子育て世帯と一次保育の提供が可能な保育所をマッチングしています。

日本生命グループとして、介護や保育事業に取り組むことでお客様に一生涯にわたる安心を提供し、目指す社会を実現していきたいと考えています。そのために、日本生命が地域の自治体・事業者・住民をつなぐハブとなり、地域の介護・保育事業の活性化を図り、このビジョンを実現していきます。

介護事業については、2024年6月から、介護・医療事務・保育領域で代表的なニチイグループを日本生命グループに迎え入れました。このことにより、従業員数は、日本生命グループ約9万名とニチイホールディングスの約8万名で計18万名ほどになります。また、ニチイグループのサービスを通じて、より多くのお客様に更なる安心を届けることができます。これらのグループ事業は日本生命が目指す社会の実現に必要なとともに、今後の日本生命にとっての成長の原動力でもあります。

現在の当社グループ基礎利益は、約7,000億円です。今後、アセマネ・ヘルスケア・介護・保険等の事業を推進することによって、2035年度にはグループ基礎利益は現行水準の約2倍、また国内保険以外の事業は全体の約3割を目指します。そしてこれを通じ得られた成果はお客様へ還元を進めていきます。

続いては職種紹介です。職種ごとの大まかな職務内容やポイント等をお伝えします。(各職種の紹介を行う)

最後に総合基幹職地域ビジネスコースについてです。総合基幹職地域ビジネスコースもエリア限定の職種であり、リーテイルを中心に幅広い分野で活躍し、高度な事務スキルと専門知識をベースに日本生命のお客様サービスを支えています。ポイントとしては列挙している通りです。

また、入社してから4ヵ月間はアドバイザー制度といって、新入職員1名につき、先輩職員1名が担当について、業務のことや、会社生活のことについてしっかりと教わる制度があり、総合基幹職地域ビジネスコースのみの制度であり、大きな特徴です。入社1年目職員に非常に役立ち、喜ばれて

いる育成制度になっています。

最後に今後の展望ですが、冒頭でお話した安心の多面体の具現化になります。生命保険を中心にアセットマネジメント・ヘルスケア・介護・保育等の様々な安心を提供する“安心の多面体”を実現することでお客様の生涯により幅広く安心を提供していけたらと思っています。

以上となります、ご清聴ありがとうございました。

ニユニコBOX

大川 裕士	高島俊治会員が今月末日をもって退会されます。2022年4月18日の入会以来3年9カ月にわたり委員会活動、奉仕活動にご協力頂きましてありがとうございました。今後のご活躍をお祈りしております。追伸 環境が整いましたら、また。
内藤 智介	12月10日、出前授業お疲れ様でした。私も子供の時に受けてればもっと有意義に生まれたかも…。また、会長幹事会の懇親会費の持ち合わせがなく大川会長に立替えて頂きありがとうございました。高島会員、残念ですがお疲れ様でした。またどこかでお会いできる事を楽しみにしています。
高島 俊治	12月いっぱい退会させていただく事になりました。約3年半、大変お世話になりました。君津ロータリークラブの益々のご発展と、皆様のご健勝・ご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございました。
大森 俊介	高島俊治会員、今までありがとうございました。今後も引き続き宜しくお願いします。今年も残りわずかとなりました。良い1年の締めくくりとなるよう、頑張ります。
谷川 有司	ご安全に。高島俊治会員お疲れ様でした。同好会でお会いできたら、宜しくお願いします。
小幡 倖	いよいよ詰まって来ました。後始末が多すぎて、何をどう対応すべきか悩んでいます。山口さん、ありがとうございました。高島さんありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。
川村 優子	皆さんこんにちは。高島俊治会員

お疲れ様でした。とても残念です。山口会員、会員卓話ありがとうございました。

鈴木 秀範 先週は周西中学校の出前教室お疲れ様でした。写真では生徒たちの真剣に授業を受けている姿を拝見できて、充実した教室になったのではないかと、嬉しく思います。今年もあと半月です。体調に気を付けて参りましょう。

廣田 二郎 12月10日周西中の出前教室での講師をされた方々大変お疲れ様でした。山口会員、貴重な卓話ありがとうございました。

福田 順也 本日は、山口会員、貴重な卓話ありがとうございました。高島俊治会員、大変お世話になり、ありがとうございました。

釧持 純一 山口会員、卓話ありがとうございました。出前教室の講師の皆様お疲れ様です。ありがとうございました。

秋山 大輔 山口会員、日本生命の暴露話大変ためになりました。

隈元 雅博 山口会員、貴重な卓話をありがとうございました。高島俊治会員、お世話になりました。またどこかでお会いできると思います。今後のご活躍を祈念しております。大多和会員、ロータリーの友のご紹介をありがとうございました。これからも地域貢献と世界平和の為にロータリー活動を頑張ります！

安田 学 山口会員、会員卓話ありがとうございました。高島会員、大変お世話になりました。

秋元 直樹 山口会員、卓話ありがとうございました。高島俊治会員、お世話になりました。これから益々のご活躍をお祈り申し上げます。

松原 颯 山口会員、ありがたいお話ありがとうございました。

宮寄 慎 山口さん貴重な卓話ありがとうございました。

大多和一彦 山口会員、卓話ありがとうございました。

金子 勝美 山口会員卓話ありがとうございました。

岡野 直美 山口会員、卓話ありがとうございました。

坂本 直樹 山口会員、大変興味をそそるテーマでの会員卓話ありがとうございました。

中野 賢二 先程、協立工業の事務所にOB会員の本多貞之さんが遊びにきました。7度のガン手術にも負けず、今でも元気にゴルフをやっているそうです。本当にすごい方です。

秋元 政寛 乾燥のせいかな、声が出なくなっています。ほんの少し先まで声が届かず不便を感じています。普段当たり前に思っている事のありがたさに感謝しなければ。

佐々木昭博 本日は四つのテストを唱和させていただき、ありがとうございます！3週間ぶりの例会出席です。宜しくお願いします。

黒岩 靖之 皆様こんにちは。大川会長、本日はお誕生日おめでとうございます。これからもご健康でご活躍下さい。

秋元ゆかり 弊社の「君鶏の鶏おせち」ですが、お陰様で完売致しました。ご注文をして頂きました会員の皆様、ありがとうございます。

篠塚 知美 市原JEFのJ1昇格が決まりましたね。また1つ千葉県に明るい話題となりました。

石野 英人



周西中学校の出前教室（R7.12.10）



鳥取会員 「水をきれいにする仕事」



太多和会員 「金融教育 お金とは」



高島会員 「製鉄所内のエコな仕事」



永鷺会員 「病院のお仕事とリハビリについて」



森井会員 「オペレーターという仕事」



黒岩会員 「クレーン車ってなに？」



石野会員
「電気をつくる仕事～わたしたちのくらしを支える電気～」



全体式の様子 内藤幹事挨拶